別添

議題１　ひとにやさしいまちづくり推進指針（2020～2024）に関連する事業の取組状況について

…１ページ

議題２　令和４年度 のひとにやさしいまちづくりの主な取組（案）について

…３ページ

議題３　高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令の一部改正について

　　　　　…５ページ

**議題１　 ひとにやさしいまちづくり推進指針（2020～2024）に関連する事業の取組状況について**

**○　狩野　徹　会長**

誰もが使いやすい製品の研究・開発支援件数について、目標値に対して厳しい現状かと思います。何かしらの働きかけが必要かと思います。実際には該当する製品があるかもしれません。その把握に取り組んでみるのはいかがでしょうか。

**○　大信田　康統　副会長**

　　・　私たち車椅子使用者にとっては、ノンステップバスの導入率は社会参加活動に大きく影響します。導入率の推進をお願いします。

　　・　使いやすい製品研究等について、ドアオープナーは最近目にすることが多く感激している。

　　　　なお、私たち車椅子使用者の願いは車椅子から落ちてしまったときの対策として、常に車椅子に敷いているクッションの空気吸入口をゆるめることによって、30㎝ほど、膨らむクッションがあると車椅子に乗れるので、是非、開発してほしい製品です。

**○　中里　登紀子　委員**

全ての人に使いやすい「ものづくり」に関して、他の実績と比較した場合、R6の目標値に対して、進捗状況が遅く、目標を達せるのか分かりません。この原因についてお伺いします。

【事務局回答】

　　　誰もが使いやすい製品の研究・開発支援件数の実績は、岩手県工業技術センターによる研究・開発支援件数のうち、ユニバーサルデザイン製品に係る支援件数を計上しているものです。

　　　研究・開発支援の実施に当たっては、事業者からの申し出に基づき、実施しており、申し出件数が増加していない背景には、事業者におけるユニバーサルデザイン製品に係る企画・開発等の理解が十分ではないほか、市場拡大が進んでいないこと等が考えられます。

　　　県としては、ひとにやさしいまちづくり表彰を実施することにより、事業者の意識啓発を図るほか、岩手県工業技術センターと連携しながら、事業者に対する研究・開発支援等を行っていきます。

**○　新沼　與巳　委員**

・　ひとにやさしいまちづくり利用証の交付はどこで行っているのでしょうか。

【事務局回答】

　交付窓口は広域振興局保健福祉環境部、保健福祉環境センターです。

　　・　交付対象者の選定方法はどうなっているのでしょうか。

【事務局回答】

　　　交付対象者は車いす利用者のみならず、精神・知的障がい者や妊産婦の方等の歩行が困難な方を想定して選定しています。詳細の交付対象者は次のとおりです。

　○交付対象者

　　　視覚障がい（４級以上）、聴覚障がい（３級以上）、平衡機能障がい（５級以上）、上肢不自由（２級以上）、下肢不自由（６級以上）、体幹不自由（５級以上）、非進行性脳病変（上肢（２級以上）、移動（６級以上））、各種の内部機能障がい（４級以上）、精神障がい（１級）、知的障がい等級（Ａ）、要介護（１～５）、妊娠中又は出産日から１年未満、その他

・　推進指針に係る施策や関連事業に関して市町村に対する周知はしているのでしょうか。実施の有無及びその方法はどうなっているのでしょうか。

【事務局回答】

　　市町村に対する周知については、事業を実施する担当課において、様々な方法により実施していると認識しています。

地域福祉課における市町村に対する周知方法については、事業に係る案内の送付、チラシ・ポスターの作成、県広報媒体（県ホームページ、Twitter等）を活用した周知を行っています。

・　ひとにやさしいまちづくり条例で定める事項について、県の責務として「施策の策定及び実施に当たっては市町村との緊密な連携」、また、市町村の責務として「県が実施する施策への協力」とあるが、このことに関して行ったことを具体的に示して下さい。

【事務局回答】

県では、ひとにやさしいまちづくり施策を総合的かつ計画的に推進するため、「ひとにやさしいまちづくり推進指針」を策定しており、策定に当たっては、市町村等を委員とする「ひとにやさしいまちづくり推進協議会」の開催のほか、市町村や県民等を対象とした地域説明会を開催し、市町村の意見を指針に反映させるなど、施策の策定時において市町村との連携を図っています。

また、施策の実施時における市町村との連携について、例えば、ひとにやさしいまちづくり条例に基づき実施する、特定公共的施設の新築等における県への事前協議に係る事務（※）については、協議書審査や検査、建築主への助言等の事務を市町村に委託して実施しており、市町村と連携しながら、全ての人が安全かつ円滑に利用できる施設整備等を推進しています。

※　特定公共的施設を新築等する者は当該建築物について、県が定める「公共的施設整備基準」に適合するために講じる措置の内容を県へ事前協議しなければならない。

**○　橋本　政樹　委員**

当会（岩手県精神保健福祉連合会）としては、昨年度と同じですが、推進指針P24の「心のバリアフリー」が重要と考えておりますが、障がいを理解していただく普及啓発は非常に難しいものがあります。

しかし、その一つはやはり教育です。コロナ禍で家庭内でも様々な問題を抱えるような時代、加えていじめやひきこもりが問題化してきており、早くから心の健康（誰でも、心を病むことがあるということ）について教育する必要があるのではないかと考えます。

来年度から高等学校の教科書にも精神障がいについて掲載されることとなっております。小中学校においても、可能な限り様々な方法で子どもたちに教えていく必要があると思います。

**○　前田　真秀　委員**

　　　資料２　No.23　公共交通バリアフリー化設備等整備費補助について、東北本線仙北町駅は、バリアフリー化に向けて盛岡市と協議を行いながら来年度実施設計に着手予定です。東北本線紫波中央駅は、バリアフリー化に向けて紫波町と協議を行いながら来年度工事着手予定です。東北本線岩手飯岡駅は盛岡市による自由通路整備に合わせ、バリアフリー設備を整備した橋上駅舎を2022年冬頃の供用開始を目指して工事を進めております。

今後も駅舎のバリアフリー整備に取り組んでいくため、関係者の皆さまにおかれましては引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。

**○　山下　梓　委員**

・　資料１「２主要な指標の推移」５－⑨「障がい者の雇用率」について、令和３年度見込値が前年度に比べて0.1ポイント近く上昇した点は、望ましいことだと思います。一方で，人口に占める障害とともに生きる人たちの比率に比べて法定雇用率は低く設定されているので、令和6年度目標を上回るよう取組を加速されることを期待します。

・　資料２を拝見し、コロナ禍において可能なさまざまな取組を展開してくださったことが分かりました。セミナー等を集合型で実施されたものもあるようですが、アフターコロナにおいても、ユニバーサルアクセスの観点から、できるだけ集合型だけでなくオンラインの併用をご検討いただきたいと思います。

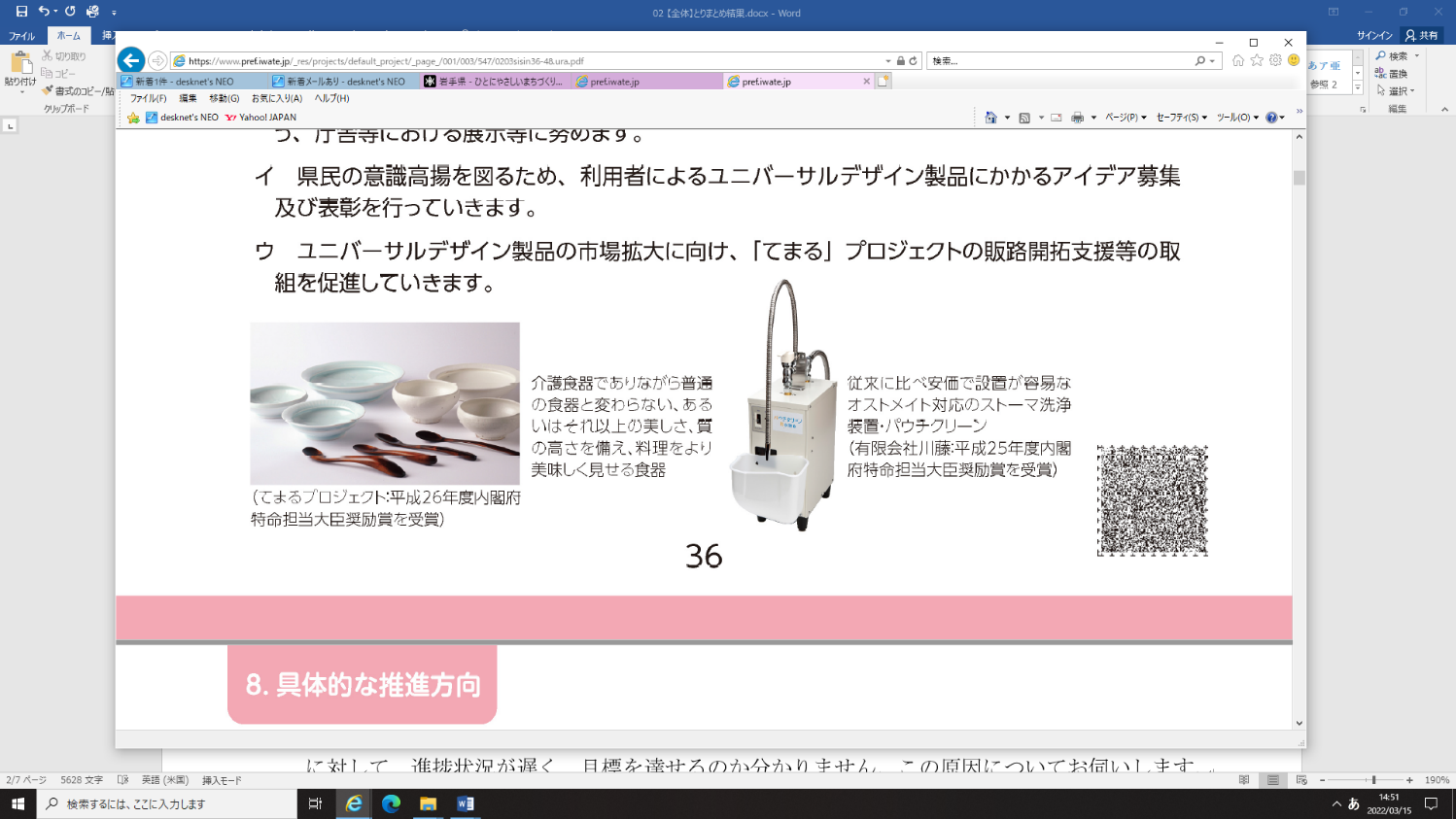
・　資料２を拝見し、全体的に、障害者、高齢者、外国人、女性、子育て世帯、LGBT等、縦割り的に取り組まれている印象を受けました。高齢の女性、障害のあるLGBTの人、子育て中の外国人等、今後は、複合的な視点での取組も展開されることを期待します。

**○　横澤　泉　委員**

・　ハンズフリードアオープナーを町役場のトイレやスーパーの冷凍ショーケースで活用しています。コロナ対策にもなり本当に良い商品だと感心しています。できれば、幼児や車椅子の方も使いやすいように、低い位置にも取り付けてほしいです。

・　全てのひとに使いやすい「ものづくり」の具体例は、自動販売機とかゴミ箱とかハサミや包丁でしょうか。

【事務局回答】

　ひとにやさしいまちづくり推進指針（2020～2024）では、以下のような製品を紹介しています。

**議題２　令和４年度ひとにやさしいまちづくりの主な取組（案）について**

**○　狩野　徹　会長**

ひとにやさしいまちづくりセミナーに期待しています。本学学生などにも周知できると良いと思っております。

**○　大信田　康統　副会長**

県南広域振興局保健福祉環境部が窓口となり実施している「弁慶と共に登る中尊寺・月見坂車椅子体験会」に２年ほど前に参加しましたが、車椅子１人では絶対味わえない坂道体験をしました。昨年は残念ながら中止でした。対面会議であれば聞いてみたい事例がたくさんあります。

**○　成田　優子　委員**

　　・　ひとにやさしいまちづくりセミナーに参加しましたが、メディアユニバーサルデザインについて大変勉強になりました。今後も広く県民のみなさまに普及啓発をお願いいたします。

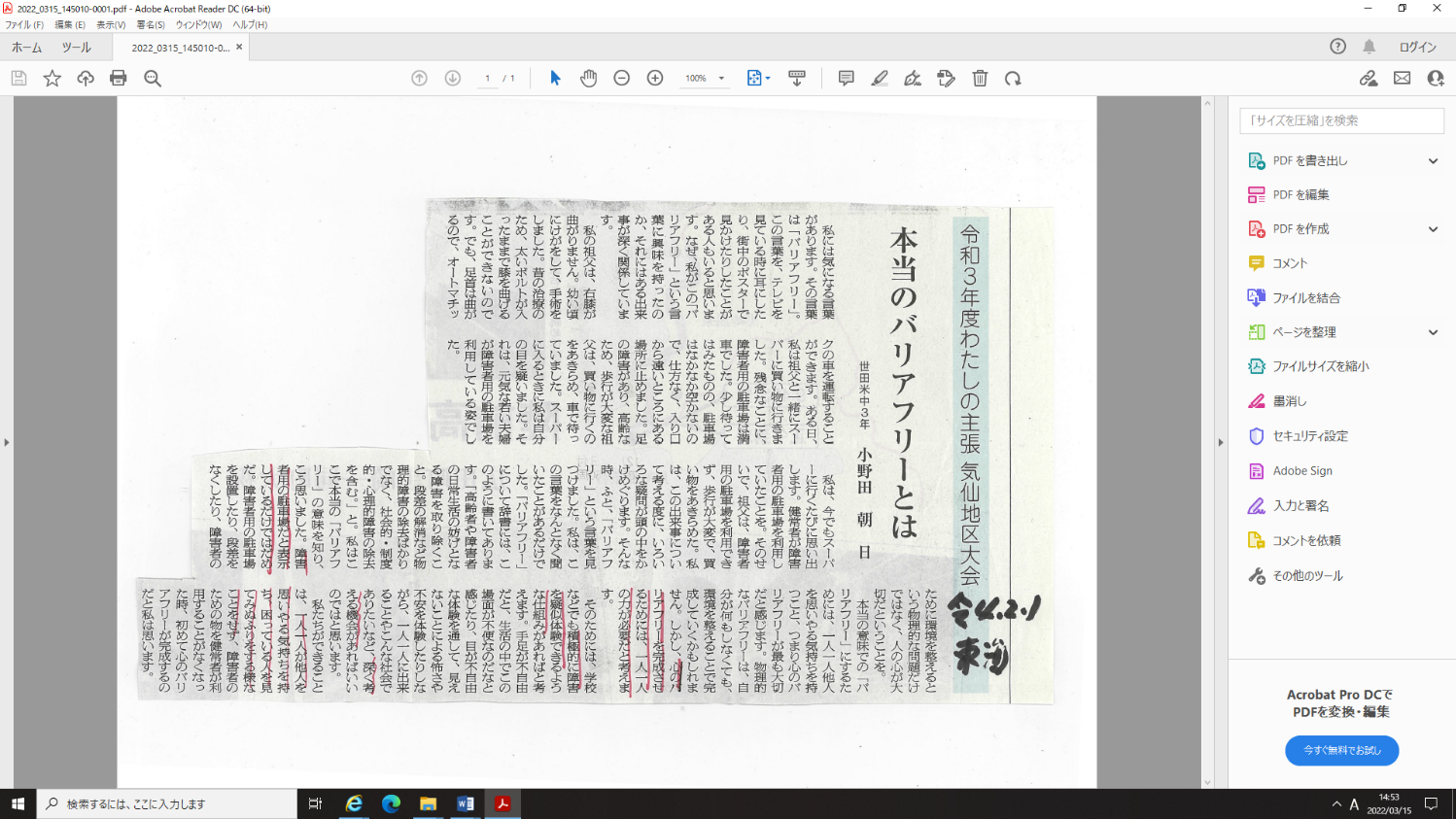
　　・　いわてユニバーサルデザイン電子マップについて、視覚障がい者当事者（弱視）の立場から実際のサイトにアクセスしてみました。一部で淡い色合いが使用されていて、地図の市町村名の部分などは見えにくい部分がありました。文字サイズの変更、配色の変更ができるといいと思います。

**○　新沼　與巳　委員**

　　・　県と市町村の連携について、現状は当該事業が全県のものになっていないように見受けられます。その上で例えば、宮古地域ユニバーサルデザイン推進連絡協のような組織づくりを全県振興局単位で作るべきと思います。

　　・　駐車場利用者制度の充実について、参考として新聞の記事を見て下さい。この記事の事例は当該利用者制度がうまく機能していないことを物語っていると思います。

　　　　当該利用者証はただ交付するだけでなく、その利用方法（例えば、フロントガラス等）も具体的に示すことなど、健常者の車両が自由に駐車できないような利用方法も工夫すべきと考えます。



　　・　少子高齢化時代に対応した施策の充実について、ユニバーサルデザインやバリアフリーの理念に基づき、高齢の一人暮らし障がい者が安心してくらせるような地域づくり、自助、共助、公助の視点の「心のバリアフリーの実践」これらの具体的な施策の充実が求められると考えられます。

**○　山下　梓　委員**

・　「１ひとにやさしいまちづくりセミナーの開催」、「６県が新築・新設する特定公共的施設の意見公聴会の開催」について、参加者や意見を聴かせていただく方々にとっての利便性の観点から、オンライン開催の活用についてもご検討いただきたいと思います。

　 ・　「６県が新築・新設する特定公共的施設の意見公聴会の開催」について、挙げられた方々だけではなく、「ひとにやさしいまちづくり推進指針」が範疇としている外国人やLGBTの人たちや、それらの人たちの視点からの意見も積極的に聴取されることを期待します。

**○　横澤　泉　委員**

・　ヘルプマークはテレビの情報で知っていますが、現物をまだ見ていません。特に内部障がいや難病の方は分かりにくいので、とてもお互いに知る方法で助かると思います。名札のように、間違えて、紛失や、洗濯してしまう素材のものであるならば、スペアもお配りしたら喜ばれると思います。

・　配付先は病院であるとか、役場の健康福祉課でしょうか。

【事務局回答】

　配付窓口は広域振興局保健福祉環境部、保健福祉環境センター、市町村の障がい福祉担当課等です。

**議題３　高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令の一部改正について**

**○　狩野　徹　会長**

いずれは対応すべきと思いますが、まずは改訂の趣旨を理解してもらうことが重要だと思います。小規模施設については厳しいところがあると思いますので、現状の部分の達成レベルを上げることに取り組んでいけば良いと思います。

**○　大信田　康統　副会長**

小規模建築物に対して、出入口等の義務規定を追加することについて、是非、盛り込んでほしいと思います。建物内が混雑すると身動きができなくなることから、出入口、通路幅は必要です。

**○　大田代　洋一郎　委員**

　　・　事務局より示された資料４のとおり、努力義務規定による効果を測定する必要があると考えます。

　　・　小、中規模建築物に対する適合を義務規定とする場合は、何らかの負担軽減があってしかるべきと考えます。容積率への不算入等があるようですが、容積率の拡大や固定資産税の減額等あってもよいのではないでしょうか。

**○　加藤　隆男　委員**

　　・　事業者の財政基盤の状況が反映する制度の導入が可能か否かの視点でも検討願いたい。（所得税の減額、引当金の有無や額等）

　　・　小規模建築物の種類が反映する制度の導入が可能か否かの視点でも検討願いたい。（例えば医院と飲食店を同列に論じていいか）

　　・　地方税等の優遇措置の導入が可能か否かの視点でも検討願いたい。

**○　佐々木　裕子　委員**

・　物理的に建物に対するサイズ、構造等、文章の上では非常に興味深く、反面、本県に関しては義務化が必要かどうか、継続検討が必要と思われます。

・　全くの私見ですが、本県においては建物内というよりは建物に入るまでのアプローチ、歩道、駐車場など、外部の雪、凍結による転倒などが心配されます。

　　　　県内全体で検討は難しいと思いますが、せめて人が集まる地域、公共交通網沿線など、凍結防止、除雪対策等雪に強い街づくりも「ひとにやさしいまちづくり」につながると思います。

**○　新沼　與巳　委員**

本資料の検討の視点②、③で述べられている事業者の負担増を鑑み、民間事業者は努力義務規定、公共施設は義務規定という、検討をしたらいかがでしょうか。

**○　前田　真秀　委員**

検討に当たっては、個々の施設の実態を踏まえた、柔軟な運用が可能な形での対応を希望いたします。

**○　山下　梓　委員**

　「２検討の視点」には、障害者権利条約にも定められているアクセシビリティの視点、合理的配慮の視点もあってしかるべきではないかと考えます。③には「新たに条例改正を予定している都道府県はない」と書かれていますが、政令施行前に小規模建築物に対して義務づけを行っていた都府県があることは見逃せない(これらの都府県の実践について積極的に情報収集して検討すべき)なのではないかと思います。

**○　横澤　泉　委員**

・　やはり北国なので積雪の害があります。特に車椅子用駐車場はスーパーの場合でも、病院であっても、その部分のスペースだけではコンクリートの下に雪が溶けやすいシステムに、少しずつ変えていった方が良いと思います。

・　冬場は横断歩道の押しボタンでもエラーが発生することもあり、誰もが使いにくいと感じる場面を目にします。

・　高齢者は駅で、バスや電車の時間を待つ間に、足を伸ばして手荷物と共に休憩したいと話しています。（冷たい床に寝転んで時間を過ごす方もいます。）お店に入らなくてもリラックスできる、空間をつくっていただきたいです。